

---

---

# 共催展示『地図アラカルト 世界と地域』を開催して

外務省外交史料館 外務事務官

戸塚 順子 とつか・じゅんこ

---

---

## 1. はじめに

---

平成26年（2014年）1月4日から2月23日までの期間（月曜・祝日を除く43日間）、外務省外交史料館（以下「当館」）と埼玉県立文書館は共催展示「地図アラカルト 世界と地域」（以下「本展示会」）を、さいたま市浦和区にある埼玉県立文書館一階展示室において開催した。本展示会は、当館が地方自治体の公文書館と連携して、東京都外で行った初めての展示会である。以下、当館の展示担当者である筆者が、本展示会の概略を報告させていただく。

## 2. 開催までの経緯

---

公文書管理法では、国立公文書館等は、展示その他の方法により、特定歴史公文書等を積極的に一般の利用に供するよう努めなければならないとされている。また、「特定歴史公文書等の保存、利用及び廃棄に関するガイドライン」では、展示会の開催等の取組を通じて、国民が歴史公文書等に触れる機会を数多く用意することで国民の歴史公文書等への関心を高めることが重要であり、地方での展示会開催や国立公文書館等として定められている施設同士の連携した取組についても検討すべきであるとされている。

こうした法の趣旨に鑑み、外務省の特定歴史公文書等を扱う施設として指定を受けている当館は、平成25年3月30日から4月18日の期間、国立公文書館、宮内庁宮内公文書館と連携して展示会「近代国家日本の登場—公文書にみる明治—」を開催した（会場は国立公文書館）。今回の埼玉県立文書館との共催展示会は、これに続く試みとして企画

したものである。

上述の国立公文書館、宮内公文書館との連携展示会は、国立公文書館の提案により実施されたものであったが、今回の展示会は、当館が主体的に企画したものであった。そのため、展示会の準備は、まず共催を引き受けていただける公文書館を探すところから始まった。その際、当館の予算上の都合から、首都圏の公文書館を対象を絞って打診を行った。当然のことながら、ほとんどの館が展示の年間計画を策定済みであり、平成26年度以降であればともかく、平成25年度内の共催展示開催は難しいとの回答であったが、そんな中で、埼玉県立文書館が共催を引き受けてくださった。同館でも、既に平成25年度の展示年間計画を策定済みであったが、その計画の中から、共催展示を行いやすいテーマである地図をテーマとした展示会を当館との共催で開催してくださることとなったのである<sup>1</sup>。

こうして、共催館（開催場所）、展示会のテーマ、開催期間が決定し、平成25年11月上旬に当館担当者が埼玉県立文書館を訪問し、同館担当者と打合せを行った。なお、打合せの前に、電話やメールでやりとりをし、展示室の環境や面積・間取り、展示ケースの寸法、数量等を確認し、あらかじめ当館の展示史料候補を選定した。打合せでは、各館の展示構成や展示史料について話し合った他、ポスター、リーフレット、解説冊子のデザインや構成を検討した<sup>2</sup>。この打ち合わせ以降は、再び電話、メールで連絡・調整を行い、開催までの準備を進めた。そして、展示会開催の約2週間前から広報を開始し<sup>3</sup>、12月24日から27日の期間で展示史料の搬入、会場の設営を行った。



ポスター  
両館の展示史料を背景とした。

### 3. 展示史料

本展示会では、両館が所蔵・保管する代表的な地図史料やそれに付随する史料を展示し、幕末から昭和期に至るまでの我が国及び埼玉県地域の歩みを地図を通して紹介した。展示構成としては、当館のコーナーと埼玉県立文書館のコーナーを分け、それぞれが所蔵史料を展示した。

当館からは、慶応3年（1868年）にパリで開催され、日本人が初めて参加した「万国博覧会会場全図」や明治28年（1895年）に調印された「日清講和条約附属地図」（遼東半島地図）を展示したほか、幕末の江戸開市の際に外国人が自由に行動できる範囲を幕府が検討し作成した地図であり、現在の埼玉県にあたる地域もその範囲に含まれていた「江戸在留外国人遊歩規程下調図」<sup>4</sup>など埼玉県と関わりのある史料も展示するよう努めた<sup>5</sup>。



写真1 「江戸在留外国人遊歩規程下調図」  
左頁上部に埼玉県地域の地名が見られる。

埼玉県立文書館からは、明治6年、地券発行のために作成された「武蔵国比企郡宮前村地引絵図」や明治30年代以降に測量・作成された河川台帳(実測図)<sup>6</sup>、県内への鉄道敷設を示す「[関東地方鉄道路線図]」など地域の近代化を示す地図、また第二次世界大戦によって空襲の被害を受けた熊谷市の「熊谷復興都市計画図」などが展示されたほか、幕末に庶民に向けて発行された世界地図「万国山海輿地全図」やペリー来航の様子を伝えた「[嘉永六年渡来黒船図]」<sup>7</sup>など、埼玉県内の民家に残された地域住民と「世界」との接点を示す地図も展示された。また、埼玉県立文書館のコーナーで、当館の所蔵史料の画像をパネル化して展示した箇所もあったが、これは、埼玉県立文書館の担当者がアジア歴史資料センターに掲載されている当館の所蔵史料を調査し、その中から、展示の文脈に即した史料を選択、該当史料の画像データを当館で用意し提供する、という方法で行ったものである。限られた時間の中で、できるだけ共催展示の良さを出そうとした工夫であったといえよう。

こうした工夫の結果、幕末以降の埼玉県地域の人々、あるいは日本国民が、変動する国際社会の中で、どのように世界情勢を見、また影響を受けながら地域の中で歩んできたのかを、両館の展示史料を合わせて見ることで想起できるような展示内容となったと思う。

また、メインの展示とは別に、当館の紹介コー

ナーを設け、所在地、業務内容、代表的な所蔵史料をパネルによって紹介した。



写真2 「大里郡河川台帳正本」  
現在の深谷市上敷面周辺を描いたもの。

#### 4. 成果と課題

本展示会の総来場者数は2,689名(一日平均62.5名)であった。これは、埼玉県立文書館の通常の展示会の2倍の来場者数であり、来場者の任意アンケートによれば、半数以上が初めての来館であると回答した<sup>8</sup>。また、埼玉県知事の視察があり、その様子は知事のブログにも掲載された。これに伴い、県庁職員等も多数来館したとのことである。

このことから、本展示会の実施は、埼玉県立文書館にとっても、県内での文書館の認知度を向上させると共に、県職員の文書館に対する理解を深める機会となったのではないと思われる。

他方、当館展示室への1月から3月の来場者数も前年度と比較し、約200名増加した(比率でいうと、約1.8倍増)。共催展示の影響だけとは一概には言えないが、当館の認知度の向上にも一定の効果があったのではなかろうか。

また、来場者アンケートに記された感想によると、「近所で貴重な資料を見ることができて良かった」「歴史で学んだ事柄が地図その他で実際に裏付けられ大変興味深い」「身近な地域が激動の時代に関わりがあり、大変楽しめた」という意見が見られた。普段、歴史公文書等に触れる機会があまりない方々に楽しみながら関心を深めてい

ただくという本展示会の目的がある程度達成できたのではないと思う。また、「歴史上の資料が大切に保管されている事の背景には多くの方の日頃の苦労があると思感謝します」という意見も見られ、歴史公文書等を保存し、利用に供する公文書館の役割を伝える上でも有意義であったことがうかがえた。なお、比較的多くの方の来場があり、興味をもって展示を見ていただけた理由として、展示のテーマが「地図」であったことも大きく影響していたと思われる。通常、公文書の展示は文字資料が中心をなし、視覚的に単調な印象を与えがちであるが、地図史料は視覚的にも目を引き、またくずし字が読めない方でも、適切な解説があれば、地図から多くのことを読み取れるからである。その意味でも、今回の共催展示のテーマが地図であったことはプラスに作用したと思う。

その他、良かった点としては、埼玉県立文書館を何度か訪問する中で、書庫を見学させていただいたり、展示作業・教育普及活動等についてお話を伺う機会があったことも挙げておきたい。業務上参考になる点が多くあった。

課題としては、今回は準備期間が十分にとれなかったため、両館のコラボレーションが限定的になってしまったことが挙げられる。各館のコーナーを空間的に区切ってそれぞれに史料を展示したが、時間の余裕があれば、両館担当者が調整しながら、より一体感のある史料展示が可能であったと思われる。



写真3 展示室の様子  
手前が当館、奥が埼玉県立文書館コーナー。

また、当館の人員・予算の都合上、展示会開催の場所が限られたこと、展示史料解説等の関連イベントを開催できなかったことも検討すべき課題である<sup>9</sup>。展示解説の希望はアンケートにも見られたので、次回以降、実現できるよう努めたい。

なお、開催地については、平成26年度は展示に関する予算が増額されたため、今後はやや遠方でも対応可能となると思われる。当館との共催展示開催をご希望の機関があれば、ぜひご一報いただきたい。今回の展示会で得た経験を活かし、より魅力ある展示会を開催すべく努力する所存である。

最後になるが、本展示会開催にあたり、限られた時間のなかで、できるだけ良い展示会となるよう、熱心にまた臨機応変に対応して下さった埼玉県立文書館の関係各位に心より感謝申し上げる。また、ご来場くださった皆様にも厚くお礼申し上げます。

※本展示会の概要及び展示史料解説は当館ホームページ内のコンテンツ「特別展示アーカイブス」、



写真4 来館者見学の様子  
床面には埼玉県の衛星写真が展示された。

埼玉県立文書館ホームページ内のコンテンツ「展示のご案内」に掲載されている。

○外務省外交史料館HP「特別展示アーカイブス」  
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/honsho/shiryo/archive.html>

○埼玉県立文書館HP「展示のご案内」  
[http://www.monjo.spec.ed.jp/?page\\_id=21](http://www.monjo.spec.ed.jp/?page_id=21)

- <sup>1</sup> 埼玉県立文書館には、埼玉県を中心とする地図や地理学資料を収集し、利用に供している地図センターが付設されている。地方自治体がこのような地図資料に特化した施設を持つことは珍しく、同館の特色の一つとなっている。
- <sup>2</sup> ポスター、リーフレットは主な展示史料の画像を埼玉県立文書館から提供いただき、当館の史料画像と合わせてデザインを作成した。また、解説は冒頭に掲載する挨拶文は二館合同の文章とし、展示史料解説部分は各館の担当者がそれぞれ執筆した。なお、印刷はいずれも当館が省内の印刷所等を使用して行った。
- <sup>3</sup> 広報活動としては、両館のHP、SNSで告知を行った他、埼玉県立文書館側で、埼玉県内の図書館等へのリーフレット配布、出版・報道各社への情報提供等を熱心に行ってくださった。その結果、NHKの首都圏ニュースやテレビ埼玉のニュース、東京新聞、朝日新聞の埼玉版への記事掲載など多数のメディアに取り上げられ、来場者数の増加につながった。
- <sup>4</sup> 現在の埼玉県地域では、川越市、所沢市等がこの地図の範囲に含まれている。
- <sup>5</sup> 「万国博覧会会場全図」の関連史料として、当時、日本政府代表として派遣された使節団の滞欧中の「請取証書」（レシート）をパネルにして展示したが、これは、現在の埼玉県深谷市出身の渋沢栄一とゆかりのあるものである。渋沢は後に、我が国の社会公共事業において指導的役割を果たした人物であるが、同使節の勘定方及び庶務を担当しており、パリ滞在中は経済の仕組みなどを学んだ。当該史料は渋沢が管理していたと思われるもので、レシートの内容を見ると、使節団一行の滞欧中の様子を窺うことができ、面白いと好評であった。
- <sup>6</sup> 現在の深谷市上敷免周辺を描いた、利根川河川台帳（実測図）正本の一葉が展示された（写真2を参照）。1200分1という大縮尺で描かれているため、本図からは河川以外にも多くの情報が読み取れる。明治20年、渋沢栄一らによって設立された日本煉瓦製造株式会社による日本最初の洋式煉瓦工場が描かれており、煉瓦で組まれたホフマン窯の煙突や当初使用していた小山川舟運のための船着き場、明治28年に敷設された日本初の会社専用鉄道も見ることができる。
- <sup>7</sup> ペリー来航の際、川越藩と忍藩が浦賀の警備にあたったため、それを伝える史料が埼玉県内の旧家宅に残されていたようである。
- <sup>8</sup> 来場者数、アンケート結果は埼玉県立文書館提供。なお、アンケートは195通回収。
- <sup>9</sup> 埼玉県知事等要人の来館があった場合は、埼玉県立文書館の職員の方が当館の展示史料についても説明をしてくださった。また見学者から質問等があった場合は、筆者に連絡をいただき、対応した。